

西部支部巡検会報告：周知郡森町立花村(橘)及び磐田郡敷地村の石炭試掘坑巡検

著者	北村 孔志
雑誌名	静岡地学
巻	97
ページ	33-35
発行年	2008-11-24
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024788

西部支部巡検会報告 —周知郡森町立花村(橋)及び磐田郡敷地村の石炭試掘坑巡検—

北村孔志

1. はじめに

平成19年12月25日(火)に行われた静岡県地学会西部支部の巡検会について報告する。

午前8時30分、静岡県立浜松城北工業高校に集合し、自家用車2台に分乗(1台は東部支部の斉藤会員を迎えに浜松駅経由)し、天竜川沿いを北上してゴルフ場内にある最初の巡検地を目指した。その後、観察地点4まで巡検した(図1)。案内は静岡地学95号、「石炭の試掘坑」の著者の一人である北村が行なった。

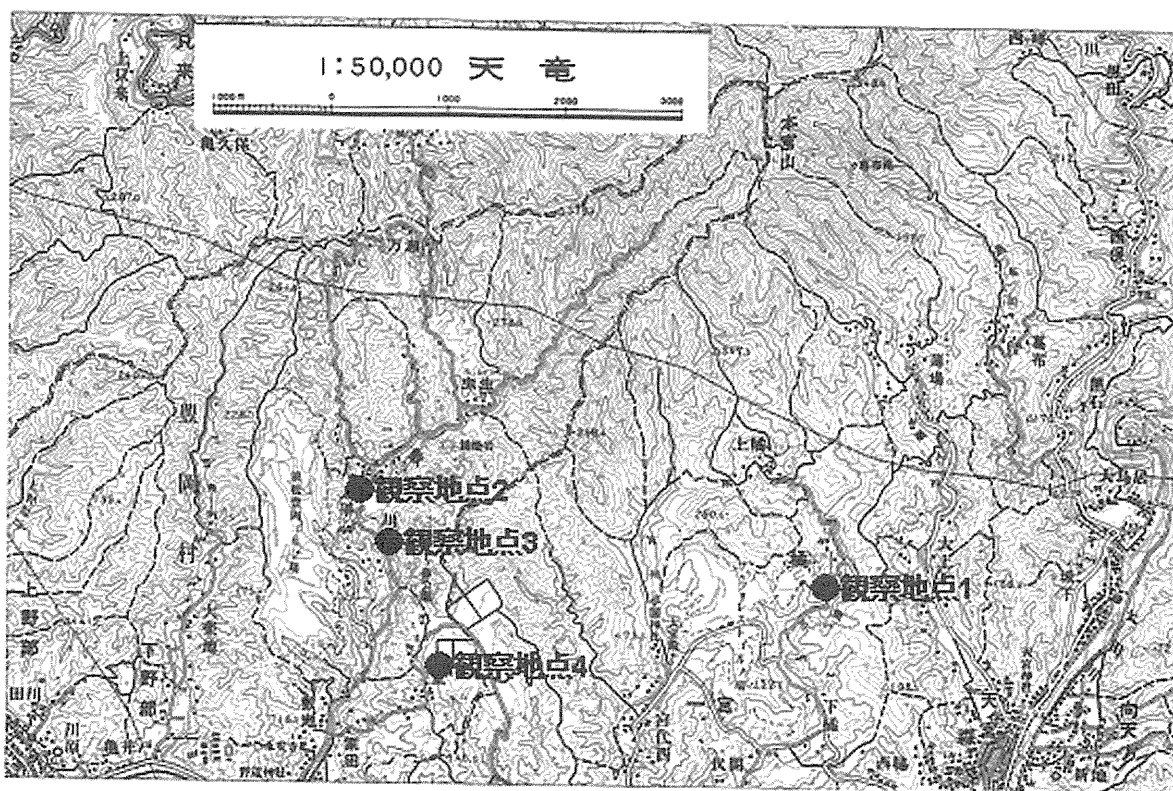


図1. 観察ルート. 国土地理院1:50,000 天竜.

2. 観察地点1

フォレストカントリーゴルフ場で担当者の末木氏と落ち合い、明治13年の博物館列品目録に記載されている試掘坑に向かった。この試掘坑の存在はゴルフ場関係者も知らなかったとのことであった。

地質は、森町史によると新生代古第三系四万十主帯に属する三倉層群である。シダ植物の生い茂る

沢沿いを上り、足場の悪い斜面に露出している入り口を目指した。坑道の入り口は、崩落した土砂に覆われており辛うじて這って出入りができるくらいである。坑道内は三倉層群の堅牢な岩石により試掘された当時のまま保存されていた。壁や天井には石鑿の跡がはっきり見られた。壁の一部には染み出した赤橙色の鉱物が見られた。この鉱物は鶏冠石の可能性がある。明治時代に石炭を分析したところ、砒素が検出されと伝わっているからである。床近くの壁には、所々に灯り用に使ったと思われる松明置場と煤が見られた。坑道内部は乾燥しており生物は居ないと思われたが、コキクガシラコウモリ(?)が数頭見られた。試掘から長い年月が経っているためか今回は、内部には石炭らしきものは確認できなかった。

沢には坑道を掘る際に出た岩石を捨てたと思われる角のとがった大きな石が、沢山見られた。

3. 観察地点2

敷地村の試掘坑（地元では炭坑穴と呼ばれている）は、有馬元文部大臣が疎開したお宅の傍の県道の真下にある。

地層は、豊岡村誌によると新第三紀中新世の家田層である。試掘坑は敷地川右岸のほぼ垂直な東向きの斜面に開口し、層理に沿って北側に伸びている。奥に進むにつれて床の勾配は上がっているため排水は良い。ここも堅牢な岩石により試掘された当時のまま保存されている。森町の試掘坑とは違い、敷地村の試掘坑には所々に石炭が見られた。天井にはコキクガシラコウモリ(?)が沢山棲んでおり、我々を不審者と思ってか迷惑そうに飛び回っていた。入坑に際してはコキクガシラコウモリ(?)配慮する必要があると感じた。

4. 観察地3

家田層は砂泥互層で、炭化した植物化石（材や葉の一部）を含むため、試掘坑近くの権現沢で採取を試みた。先人が幾度となく訪れ、採取を試みたらしくかなり荒らされている感じがした。植物化石は泥岩や砂岩中に見られるが、完全体は見られなかった。

5. 観察地4

多少時間的余裕があったので、家田にある岩室断層を見学することにした。この断層は敷地川から獅子ヶ鼻公園に向かう道路の右側にあり、案内の看板が出ている。獅子ヶ鼻礫岩が露出しており断層の境目は小規模な滝となっている。断層と固く締まった獅子ヶ鼻礫岩の観察が可能である。

6. 終わりにあたり

今回の巡検参加者は、斉藤俊仁氏（東部支部）、加茂豊策氏、遠藤一明氏、小野寺秀和氏、加藤国雄氏（西部支部長）、フォレストカントリーゴルフ場担当者の末木氏、及び案内者の北村である。城北工業高校での解散は、午後5時ころであった。天候にも恵まれ有意義な時間?を過ごせたものと思われる。ご参加ありがとうございました。

今回の巡検の主な目的は、地元でもほとんど存在が知られていなかった石炭の試掘坑見学であった。

エネルギー資源としての石炭に目を向けた，明治時代の先人の逞しさに触れることができた。

森町の橋（立花）は，明治13年の博物館列品目録に石炭として記載されているが，敷地村の石炭はなかなか文献が見つからなかった。文献はないものと思っていたが，県立図書館のレファレンス部より，大正2年静岡県内務部発行の静岡県之産業に記載されているとの連絡があった。早速調べたところ，鑛業の部に磐田郡敷地村，石炭と明記されていた。文献調査は最後の最後まで諦めるものではないことを改めて思い知った。

尚，ゴルフ場内の試掘坑見学は安全等の問題があり禁止されているので，自制していただきたい。最後に，静岡地学95号で報告した石炭の試掘坑の引用文献に間違いがあった。山中豊平（1834）の遠淡海地志を，うっかり遠江海地志としてしまった（地志の志は誌ではない）。お詫び申し上げるとともにここに訂正をさせていただく。

引用文献

山中豊平（1834）：遠淡海地志，1991年復刻版。静岡教育出版社，448p.